

豊島区町会連合会ヒアリング調査結果

1. 調査目的

地域の現状と課題を明らかにし、今後10年間で進むべき方向性や必要な支援策を検討するための基礎資料とすることを目的に実施した。

2. 調査方法

町会連合会への聞き取り調査方式

3. 調査対象

町会連合会第1～11地区の町会正・副会長 … 11名（12地区は空席のため欠席）

4. 調査実施日

平成27年6月4日（木）

5. 主なヒアリング項目

- (1) 地域活動（町会活動）の活性化
- (2) 地域を担う人材、団体の育成
- (3) 地域の課題に関する関心
- (4) 外国人との交流

6. ヒアリング調査結果の概要

(※本調査結果については、町会個別の意見・課題等である場合もあり、すべての町会に共通するものではありません。)

(1) 地域活動（町会活動）の活性化

◆町会の現状：地域によって差異がある町会加入率

- ・所属町会には500世帯あるが、町会への加入は約100世帯にとどまる。
- ・約1,200世帯のうち、町会に約880世帯が加入しており、加入率は良い。

◆マンション住人との関係：町会加入の促進と、町会費の徴収が課題

- ・マンション住人は町会に加入しない傾向がある。ゴミ出しの問題の発生、資源回収にも非協力的である。
- ・豊島区でマンションを建設する際、建設会社は町会長の承認を得る必要があるため対応する。しかし、建設後に管理会社が対応せず、町会費を集められないケースが出てきている。

◆活性化に向けた方向性：町会の魅力づくりと地域資源を活かした地域の自主性が重要

- ・会員一人ひとりが参画できるような町会にしていこうとの思いで取り組んでいる。交通安全の取組など、町会活動を全て公募で行うことで、若者が加わるようになっている。
- ・人間が集まると活気が出る。魅力ある町会をつくれれば、人が集まってくるので、人を集めることを第一に、様々な取り組みをしている。一つずつ取り組んでいくことに意義がある。
- ・町会の自主運営を第一に考えている。問題があれば、行政、子どもたち、高齢者クラブ等と協力し合い、地域の区民ひろば等も有効活用することで、地域のことは地域で解決しようとしている。

◆町会の連携：町会単位の活動から町会間の連携に向けてシフトしていくことが重要

- ・町会単位での行事運営は活発に行われているが、今後は町会間の連携に向けて、各12支部の正副会長の力をどう生かすのか、検討する必要がある。

◆町会の財政：町会規模による収入差の改善と、地域活動に係る費用面での課題

- ・町会規模の大小に関わらず、会合への参加費が一律となっている。色々な会合に協力しようとしても、町会間で原資そのものの比重が違う点が問題となっている。
- ・地域活動を行うには、町会の財政を立て直す必要がある。仲間内は結束力があり、ボランティア意識が高いが、支えていくためには行政での財政支援の検討が必要ではないかと思う。

(2) 地域を担う人材、団体の育成

◆若者の地域活動への参画：参画しやすいしくみづくり・交流機会を増やすことが重要

- ・交通安全の取組などの町会活動を全て公募で行うことで、若者が加わるようになっている。
- ・若い世代と高齢世代との交流が少ない。現在の若者と自身のサラリーマン時代を比べると、自分のやりたいことをするための財力、時間もある若者が多いと感じる。

◆町会役員の世代交代：行事への参加者から、町会役員のなり手につなげることが重要

- ・若者のお祭りへの参加がきっかけで、町会を理解して加入してもらい、2、3名が役員になった。
- ・交通安全など、町会活動への若者の参加が増えており、役員のなり手が多く、順番待ちしている状況である。

- ・声かけによって、若手のグループはある程度できつつあるが、次代を担うメンバーとしての扱いはあまり乗り気でないところも見受けられる。

◆地域と子どもとの関わり：子どもが地域との接点を持てるような取り組みが必要

- ・地域のお祭りの時に、小学校の学校参観週間が行われるなど、子どもと地域との関わりがうまくいってないように思われる。子どもが地域の行事に参加できるよう、町会や学校などがうまく連携できたらと思う。
- ・節分祭は曜日に関係なく行っているところが多く、学校の通常の終業時間では開催時間に間に合わない。子どもが地域との接点を持てるよう、参加できるような対応ができたらと思う。

(3) 地域の課題に関する関心

◆防災等：災害時対策や防災の更なる強化が必要

- ・区から要援護者への支援を依頼されたが、プライバシーを問題視されると活動できない。また、支援の必要な方には、防災訓練に参加してもらい、顔の見える関係を築く必要がある。
- ・129 町会があるが、最低でも 2 名ずつの消防団員を設置できたらと思う。
- ・炊き出し訓練の際、避難倉庫の炊き出し用のかまど、バーナーの使用を禁じられている。慣れていないと災害時に炊き出しができないため、訓練方法を改善する必要があると思う。

◆空き家の活用：時代に合わせた、人を集めるための工夫が必要

- ・シャッター通りは時代の流れで仕方がない部分があるが、商店がなければ活性化できないわけではない。工夫していくべきである。
- ・リノベーションまちづくりによって、今は地域と関わることの少ない若者や働く父親世代が、目的がなくても集まれる魅力的な場所をつくり、活気を出したい。

◆都市整備：防災や景観の観点で、まちづくりを行うことが必要

- ・大きな家が売られると、その敷地に 5、6 軒の家が建つことが多い。新たな居住者は地域に余り関心がないことが多く、防災上も不安がある。
- ・木密地域で事業が進められているが、あまり景観の良くないまちができるのではないかと危惧している。

(4) 外国人との交流

◆外国人への対応：コミュニケーションをとろうとする姿勢が重要

- ・外国人は、基本的には受け入れる方向で対処した方がいい。ただ、最低限のマナーをどう教育するかは悩むところである。
- ・最近外国人が増えてきて問題になっていると聞かすが、「外国人と仲良くしよう」「外国文化を取り入れよう」「外国人にマナーを伝えよう」との気持ちを持つ必要がある。地道にコミュニケーションをとっていくことが必要だと思う。